令和６年度 前期 学校評価 結果と分析

気仙沼高校　全日制

１　実施日および回収率

○生徒調査　：７月１６日～２５日　　回答数５９２人／全生徒数６１１人（回収率９６．９％）
○保護者調査：７月１６日～２５日　　回答数４７３人／全世帯数６１１人（回収率７７．４％）
○教職員調査：７月１６日～２５日　　回答数　５３人／全職員数　５３人（回収率１００．０％）
＊保護者の分母は兄弟姉妹の重複を考慮し、世帯数とした。

２　アンケートの概要

本校の教育全般にわたる教育計画および教育活動にかかる点検・評価を行うために、学校評価委員会（７月１０日(水)）の審議を経て、令和６年度前期学校評価を実施した。

３　分析

（１）分析の方針

グラフは今回の学校評価と前年度の学校評価とを比較できるよう並べて作成した。また、各評価項目において「そう思う」と「大体そう思う」をあわせた割合の高いものまたは昨年度と比較して肯定的な評価の割合が増加した項目と低いものまたは肯定的な評価の割合が減少したものを、それぞれ「○肯定的評価の高い項目」、「●肯定的評価の低い項目」として、生徒・教員・保護者の別にまとめた。（数値は全て％）

（２）分析と考察

①生徒

○「１５　あなたは授業以外の学習時間を確保している。」

	１年	２年	３年
R5	68.9	64.3	86.9
R6	77.5	84.1	86.0

３年生での割合は、昨年度と比較してほぼ変化はない。９割弱が進路目標の達成へ向けて家庭学習に取り組んでいるという意識を持っているようである。２年生および１年生は、昨年度と比較して、家庭学習へ取り組む意識は大幅に向上している。ホームルール等での声がけや、進路通信などの情報提供などにより、授業以外で学習時間を確保することについて、意識だけでなく取組が向上したものと考えられる。今後は取り組みの内容なども注視し、効果的な家庭学習が行われているかなども声がけをしていきたい。

○「１２　気仙沼高校の校舎やグラウンドなど、施設や設備は整備されている。」

	１年	２年	３年
R5	91.7	81.6	78.3
R6	94.1	87.6	89.8

昨年度と比較して、施設設備の大幅な改修等は行われていない。２年生と３年生で肯定的な評価が増加している要因としては、具体的な整備状況の改善という側面ではなく、学校への愛着心や愛校心が肯定的な評価に繋がっていると推察される。また、施設設備の老朽化に伴う改修などは、県の長期的な計画によるものとなるので、校舎の清掃なども含めメンテナンスをしながら大切に使用するという公共心も育んでいきたいところである。

○「１０　校内において、災害、非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている。」

	１年	２年	３年
R5	88.4	96.9	96.5
R6	94.1	99.0	98.9

この項目は、全質問項目の中で、肯定的な評価の割合が高かった項目である。昨年度も２年生と３年生においては、ほぼ同様の高評価であった。今年度は、１年生の評価が高く、地域社会研究でのハザードマップ研修や、これまで２回実施した避難訓練での学びが伝わったものと考えられる。避難訓練の実施については、今後とも工夫・改善を継続し非常時に備えていきたい。

●「７　気仙沼高校では、生徒会活動は活発に行われている。」

	１年	２年	３年
R5	90.7	72.4	75.8
R6	85.2	88.1	79.5

２年生および３年生では、昨年度と比較して肯定的な評価が増加しているが、全質問項目の中で、各学年共に肯定的な評価が９割を切っている。１年生での生徒会活動への認知度がやや低い可能性が考えられる。生徒会選挙への立候補状況なども考えると、生徒の側から活発に活動できる仕組みづくりを考えていく必要があると思われる。

生徒からの評価については、全項目の平均が 93.2%という結果であり、昨年度と比較しても肯定的な評価が増加している。上記でも述べたが、７番および１５番（１５番は改善傾向）の項目について、改善および指導の充実を図っていきたい。

②保護者

○「１　気仙沼高校では、スクールポリシーに基づいた教育課程が編成・実施されている。」

	１年	２年	３年
R5	96.2	94.9	93.2
R6	96.7	94.6	95.4

昨年度に引き続き、肯定的な評価が高い項目である。昨年度と比較しての数値の増減はないが、全質問項目のうち、一番評価が高い。学校設定科目の地域社会研究や課題研究をはじめとして特色ある教育課程を展開しており、それらが保護者に認知されていることが高評価に繋がったと推察される。

○「１４　お子さんは充実した学校生活を送っている。」

	１年	２年	３年
R5	96.3	91.2	93.1
R6	94.1	94.0	95.4

こちらの項目の評価も昨年度と大幅な変化はないが、全質問項目の中では、高い評価を得ている。質問項目８の「気仙沼高校では、有意義な学校行事がある。」と併せての高い評価であることから、学校行事の充実や普段の生活において、保護者から見た子供の満足度は高いことが推察される。

●「１５　お子さんは授業以外に学習時間を確保している。」

	１年	２年	３年
R5	64.5	58.5	74.2
R6	65.4	66.9	71.2

全質問項目の中で、２番目に低い評価となった。しかし、昨年度からの改善という視点で眺めると、２年生の保護者においては、肯定的な評価が 8.4 ポイント増加している。生徒への質問と併せて数値を見てみると、２学年で家庭学習を行っている生徒の割合は確実に増加していると考えられる。また、２年生から３年生へ進級し、受験期を迎えて家庭学習が増加していることもデータから読み取れる。昨年度は、データから所謂「２学年の中だるみ」傾向が読み取れたが、今年度は良い意味で様子が違っていることから、７割弱という数値に十分満足とは言えないものの、各学年の取組が一定程度成功

していることが窺える。

●「１３　気仙沼高校として、いじめの問題に対する取組方針が保護者と共有されている。」

	１年	２年	３年
R5	61.1	62.2	62.0
R6	64.8	51.2	72.0

昨年度と比較し、１年生と３年生の保護者からの評価は改善傾向にあるが、２年生保護者からの評価が低い状態である。また、全体としても肯定的な評価は６割を少し超える程度にとどまっており、いじめ問題への対応方針が十分に浸透しているとは言えない。今年度の生徒総会などで「いじめ根絶宣言」を割愛したことなどもあり、いじめを生まない学校づくりなどの具体的な取組や校内研修の充実などいじめ問題への対応について、今後とも取組を充実させていく必要がある。

全体として、保護者の学校に対する評価は、「部活動や学校行事が充実しており、子供は学校生活に満足しているが、家庭学習はもう少し頑張って欲しい」といった評価であると捉えることができる。部活動や各種行事での満足度を低下させずに、家庭学習の時間をどう捻出できるか、スケジュール管理も含めた指導が今後の課題であると思われる。

③教職員

〇「３　所属する部会は必要かつ十分な回数が行われている。」

R5	100.0
R6	100.0

昨年度と同様に、職員全員が肯定的な評価となっている。各部会については、定期的に行っており、部内での情報共有の機会は十分確保されていると考えられる。しかし、部を越えての調整や部内で担当者以外がどのくらい情報を共有・把握しているかといった部分までは見えてこない。
今後とも部会での情報共有の機会を確保しつつ属人化しないような仕事の取組を進めたい。

〇「１８　本校の教育活動はスクールミッションとスクールポリシーの実現に向けて適切に行われている。」

R5	96.1
R6	100.0

こちらも職員全員が肯定的な評価をした項目である。全質問項目のうち 100%肯定的な評価だった項目は上記の３と１８の２つである。本校では、様々な教育活動が実施されているが全職員がスクールミッションとスクールポリシーを意識しながら活動していることの現れであると考えられる。今後とも手段の目的化が起こらないよう、スクールミッションとスクールポリシーを意識した活動を期待したい。

〇「６　私は生徒が進んで課題を追求する態度を育てる授業を行っている。」

R5	84.1
R6	89.1

昨年度と比較して、肯定的な評価の割合が１番増加した項目である。生徒が主体的に課題を追求することを目指してした授業を意識していくことは、探究活動の充実と教科学習が別物ではないという考えが浸透している結果であると考えられる。今後とも、教科横断的な学習を推進し、探究的な姿勢を各教科の学習で育むような指導に努めていきたい。

●「９　本校では生活指導に対する共通理解・協力的実践がなされている。」

R5	82.7
R6	80.8

全質問項目の中で、最も肯定的な評価が低い項目である。また、昨年度の結果と比較してもやや肯定的な評価が減少した。普段の生徒の様子からも、生活態度に関する指導場面が少なく、生徒の生活態度が概ね良好であることも関係していると思われる。また学年を越えての情報共有をするような機会設定も少ないことから、共通理解という部分で物足りなさを感じることもあるのではないかと推察

される。様々な部分で、学年や分掌部の枠を越えた情報共有や相互の協力体制の構築が望まれる。

●「１３　学校全体で清掃活動に取り組み，校舎は衛生的に管理されている。」

R5　90.4

R6　83.0

　昨年度と比較して、最も肯定的な評価が減少した項目である。清掃活動については、７時間目の終了やその後の部活動など、短い時間で効率的に行われている。しかし、残念ながら清掃が校舎の隅々まで行き届いているとは言い難く、校舎内の蜘蛛の巣が自然科学部の研究対象になっているような状況である。まずは、職員が生徒の見本を示すという観点から、職員室の机上整理や周辺の書類整理などから取り組んでいきたい。